

book guide

フィンランドの美術館、図書館、自然学校、建築学校、動物園など、義務教育ではないオープンな学びの場や、成人教育、シチズンシップ教育、若者支援、メディア教育、性的マイノリティや障がい者の支援の現場を訪ねながら、「楽しさ」と多様な「学びの体験」を重視するフィンランドの実践を、カラフルな写真を交じえわかりやすくレポート。フィンランドの自らの未来を照らす「学び」、社会、家庭、人生のあらゆる場所で役立つ「学び」の精神を探っている。

フィンランドで見つけた「学びのデザイン」

豊かな人生をかたちにする19の実践

大橋香奈
大橋裕太郎 著



フィルムアート社
A5判変型
本体 2,000円

関西では、学力や生徒指導面で課題をかかえた「しんどい子」を中心とする学級・学校づくりが伝統的に行われてきた。そうした教育文化の中で実践・研究を積み重ねてきた著者らが、拡大する「格差」の問題に挑み、新たな学校教育を目指す試みを紹介する。学力保障、特別支援教育、学校経営ほか、提言は多岐にわたるが、その根底には共通して、子どもを取り巻く「つながり」への視点がある。力強い実践に触れ、今日の教育課題と向き合う勇気が湧いてくる。

格差をこえる学校づくり

関西の挑戦

志水宏吉 編



大阪大学出版会
四六判
本体 2,000円

学校教育、特に教科学習の中で使われる言語は、日常のインフォーマルなことばとは往々にして大きく異なっている。そうした「学習言語」の習得が不十分のために、授業についていけない児童・生徒が急増しているという。教師の発話の意味がわからない、教科書の説明やテストの設問が理解できない、レポートが書けない等々、学習に困難を感じる子どもへの支援を模索するうえで、学習言語をさまざまな観点から掘り下げた本書の考察は、新たな示唆を提供してくれる。



三省堂
A5判
本体 2,900円

バトラー 後藤裕子 著

今月の本棚



角川書店
新書判
本体 724円

悲しみの乗り越え方

高木慶子 著

著者は、喪失の悲しみ、苦しみと向きあえばよいのかということに研究し、そのただなかにある人に寄り添い、その心身をケアするという「グリーフケア」の実践を重ねてきた。紹介されている多数のエピソードからは、喪失とは、家族や親しい人の死、離婚、失業、受験の失敗や自尊心の傷つきなど、さまざまなのがあり、人生は喪失の連続であることがわかる。大震災に見舞われた今、一人ひとりが悲しみへの理解を深め、悲しみの乗り越え方を考えたい。



金剛出版
A5判
本体 2,800円

非行臨床の新潮流

リスク・アセスメントと処遇の実際

生島 浩
岡本吉生 編著
廣井亮一

非行少年の「立ち直り」において蓄積された臨床の知と社会的要請に対する根拠に基づく説明責任の中で、非行臨床は岐路にたたさされているという。現代の少年非行のキーワード「発達障害」「司法システム」「リスク・アセスメント」に対する指針を示し、家庭、学校、地域など、さまざまなシステムに多機関が連携して働きかける必要性を説く。「理解しがたい非行」への対応が喫緊の課題となっている中で、非行少年の社会復帰をどう支援するか、新たな道筋を与える。



東信堂
A5判
本体 2,700円

子ども・若者の自己形成空間

教育人間学の視線から

高橋 勝 編著

従来自明であった「大人への筋道」や「大人であること」の意味が揺らいでいる。そんな中、学校・社会から浴びせられる「個の自立」「知力の獲得」は、子ども・若者を孤立させ傷つけるものだと指摘する。「大人になること」への困難を抱えた子ども・若者の自己形成の実相を捉えるため、彼らの多様な生活の場や関係の世界を丹念に記述。子ども・若者の自己形成の問題は、「大人」を含めた他者との関係性（絆）の築きが課題であることを浮かび上がらせている。